

平成26年度 第1回多摩区地域福祉計画推進会議 会議録

会議の概要

開催日時		平成26年7月30日（水）13時00分から14時40分まで	
開催場所		多摩区役所6階 防災対策本部室	
出席者の氏名	委員	柴原君江（田園調布学園大学参与） 有北いくこ（NPO法人 ままとんき っず理事長） 藍澤温代（自立支援協議会） 三竹隆雄（多摩区町会連合会副会長） 岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会 副会長） 山口正芳（長沢・南生田地区すこや か活動推進委員会代表） 森本千恵美（区民委員） 林さわ子（多摩区役所保健福祉セン ター所長）	田嶋郁雄（多摩区社会福祉協議会会長） 中村健（多摩区医師会会長） 青木義明（多摩区食生活改善推進員連 絡協議会会計監査） 清水伊都子（菅第1地区民生委員児童 委員協議会副会長） 菅野麻美（太陽の園地域包括支援セン ター長） 初田温子（区民委員） 川澄晶子（多摩区社会福祉協議会地域 課長） 佐藤 宏（多摩区役所保健福祉センタ ー副所長）
	事務局	日向幸雄（企画課長） 池谷典彦（生涯学習支援課長） 小俣純子（児童家庭課長） 田中昭彦（高齢・障害課長） 小玉貴子（こども支援室担当係長）	滝口重充（地域保健福祉課長） 杉浦比呂子（地域保健福祉課課長補佐） 松島敦子（地域保健福祉主任） 新妻裕志（地域保健福祉課）
欠席委員		なし	
議 事		（1）委員長・副委員長の選任について （2）第4期多摩区地域福祉計画について （3）第4期多摩区地域福祉計画の主要な取組 平成26年度の取組計画	
傍聴人の数		0名	
配付資料		会次第 資料1 多摩区地域福祉計画推進会議設置要綱 資料2 第4期多摩区地域福祉計画スケジュール 資料3～11 第4期多摩区地域福祉計画の主要な取組 平成26年度の取 組計画	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	第1回地域福祉計画推進会議 開会の挨拶
区長	挨拶及び委嘱状伝達
委員	委員自己紹介
事務局	・事務局紹介 ・資料の確認 ・議事（1）委員長・副委員長選任について 柴原委員を委員長、田嶋委員を副委員長とする案の提示
委員全員	委員長、副委員長案に賛同
柴原委員が委員長、田嶋委員が副委員長に決定	
柴原委員長	就任の挨拶
田嶋副委員長	就任の挨拶
事務局	進行を柴原委員長にお願いする。
柴原委員長	議事（2）第4期多摩区地域福祉計画について、事務局から説明を願う。
事務局	資料に基づいて説明
柴原委員長	何か質問はあるか。ないようであれば、議事（3）第4期多摩区地域福祉計画の主な取組 平成26年度の取組計画について事務局から説明を願う。
事務局	資料に基づいて各事業の説明
柴原委員長	何か質問はあるか。
青木委員	私は今回初めての参加だが、年間2回の会議でどんな協力ができるのか。区役所の事業説明を聞いて、これから自分たちが何をすべきなのか。行政は、この会議の委員にどのような事を期待しているか知りたい。
事務局	資料1について説明 地域の実情を知る委員から、区役所で行っている事業について、御意見をいただければと考えている。いただいた意見に基づいて事業内容について見直しを行っていく。
青木委員	色々読ませていただいて、御期待に沿えるようにする。
中村委員	私も青木委員と同じように、前回委員を務めた際に何を目的としているのか分かりづらかった。 これまでの取組については、新しい委員にはわからないので簡単に説明してほしい。
事務局	第3期計画では、各団体と連携をとり、団体間のパートナーシップを深めていこうということで、「パートナーシップ連絡会」を開催した。この連絡会については、資料11のとおり引き続き実施していく予定だ。 また、公園を拠点として身近なコミュニティを作っていこうという計画もあり、先ほど事務局から説明したこどもの外遊び事業、みんなの公園体操、公園を拠点としたコミュニティづくり事業の報告を行い、進捗状況管理を行った。
柴原委員長	私も地域で行われたパートナーシップ連絡会に参加して、地域の方が実際に何を考え、何を活動しているのか参考になった。

発言者	発言要旨
山口委員	前期もこの会議の委員を務めた経験から言うと、地域福祉計画は国から、県から実施するように言われていて、それを受けて区としても実施している。私たちの役割としては、説明があった事業に意見を言い、行政側が適正に実施しているか確認していくことだと思う。 この会議で何かをして行くというより、行政側がやっていることに意見をいい、より良い取組にしていけばいいのではないかな。
森本委員	概要版の「みんなでつくる、だれもが健やかに安心して暮らせる多摩区」は、おそらく国が言っている「住み慣れた地域でだれもが安心して」からきていると思うが、「みんながつくる」とか、どのようにしてこの文言になったのか。
事務局	「住み慣れた地域でだれもが安心して暮らせる」というのが、そもそもの地域福祉計画の目的だ。また第3期計画の理念が「パートナーシップが光る多摩区」で、みんなで連携して協力してやっていくということだった。 第3期からの理念を継承して「みんなでつくる」を入れて、また地域福祉の目的である、「だれもが健やかに安心して暮らせる」組み合わせている。 特に実施については、区役所だけでなく町内会、民生委員、社会福祉協議会、ボランティアの方々などの協力なくして事業は進められない。その思いも、「みんなでつくる」に入れている。
柴原委員長	まず高齢者への取り組みについて質問する。公園体操、健康ウォーク等は参加者も多く、場所も広がっているが、参加者は女性が多く、男性の参加が少ないのではないかな。
事務局	全市的に見ると女性の参加が多い。体操も女性向きが多い。ただ、多摩区においては実は男性の参加も多い。食生活改善推進員においても、男性参加者がいるなど、多摩区では他の区に比べると男性に参加いただいていると思う。
柴原委員長	すばらしいと思う。 次に子育て関係の取組について質問する。地域全体で子どもを見守ることは、とても重要だと思う。色々なグループが交流して、参加することは大事なことだと思う。ただ、子供の問題を考えてみると都市化された地域ではどこにどんな子がいるのかを把握することは難しい。子供の安全を考えると、地域の人達が、どこにどのような子供がいるか把握する必要があるのではないかな。地域全体で子供を見守るとはどんなことか。見守りの具体的な方針はあるのか。是非、進めてほしいと考えている。

発言者	発言要旨
事務局	このことは、本年度の「こども総合支援連携会議」のテーマの1つでもある。第1回目の会議でも検討した。義務教育の場では、ある程度把握できるが、保育園に入らず、家庭での保育も増えている。出生届けや赤ちゃん訪問等で、把握しようという動きはあるがなかなか難しい。また多摩区では、引っ越してきて、地域との関係が希薄な中で妊娠・出産する人が多いため、地域での把握も難しい。そのため赤ちゃん訪問や健診などを通して相談や、催し等への参加を促して、誰かとの係りを持つことを進めている。 多摩区では「ままとんきっず」や、親子広場、地域子育て支援センター等、子育て広場が地域ごとに活発に開かれている。0歳から1歳までは様々な事業に参加が多い。ただ、子育て広場は室内が中心の取組のため、2歳ぐらいになるとだんだん参加しなくなり、把握が難しくなってくる。また2、3歳になると発達障害やイヤイヤ期の症状が顕著に出てくると更に参加が難しくなり、母親が孤立感を深める時期でもある。0から1歳の間にママ友や地域の方々などとの関係が深められないと、母親の孤独感は以前よりも一層深くなる。そのため1歳児までに係わり合いができるように努めている。 また、その家庭ごとの課題があるため、課題にあったフォローができるよう配慮が必要である。就学後は親子参加の機会が少なくなるので、乳幼児期のうちに行政、町内会、民生委員の方々と情報、課題を共有しながら何らかの係りをもっていきたい。そこで「こども総合支援連携会議」で実務者同士が顔合わせをして、協力して行っていくきっかけ作りを行っていく。一つ一つ取組を積み上げる形で行っていきたい。
有北委員	前期で実施した「パートナーシップ連絡会」について今期、何か発展的なものはあるのか。
事務局	パートナーシップ連絡会を引き継いで、第4期計画では地域福祉ネットワーク事業として実施する。第3期計画のパートナーシップ連絡会では、関係機関のみのワークショップを行ったが、第4期計画では新たに一般の方も参加を呼びかけ、内容について再編したものが地域福祉ネットワークづくり事業である。
有北委員	パートナーシップ連絡会を更に発展させたものが、地域福祉ネットワーク事業ということでよいか。
事務局	その通りである。
有北委員	資料11の「チーム・たま」とは何か。

発言者	発言要旨
中村委員	チーム・たまの代表を務めている。チーム・たまは、多摩区医師会で認められた団体として立ち上げた。在宅療養、つまり医療と介護の連携を、地域の多職種の方と協働で行って行きたい。来年1月には多摩市民館大ホールにて、区民向けの啓発及び旗揚げを行う。 キャッチフレーズは住んでいて良かった多摩、安心して逝ける、看取ってもらえる多摩だ。現在も10以上の団体の連携だが、今後は、もっと増やして、多職種との協働で地域に貢献できたらと思う。最終的には、地域の方々、自治会の方々と共に、チーム・たまを盛り上げて行きたい。 なかなか事務局が決まらなかったのだが、私のクリニックの5階を事務局（事務所）としてやっていく予定だ。 チーム・たまが行っていく事は、治療中心のケアから療養、介護などのケアへの移行、つまり最後の看取りを多職種の方々と連携しあうこと。2つ目は、介護難民への対応。介護保険の知識のない方、老々介護、独居老人の方の生活、介護施設等への不満などの相談窓口が必要ではないかと思っている。孤独死や老々介護での不幸な出来事をなくすために、チーム・たまは、地域の方々と連携していきたい。将来的には認知症カフェやがんサロンなど地域と密着したことができないかと考えている。
有北委員	素晴らしい取組だと思う。これは、高齢者と介護に関してのひとつのネットワークと理解してよいか。
中村委員	今の状況だとそうだ。健康な人も、逝く人も、住んでいて良かったと思えるまちにできればと思っている。福田市長の言われる“最幸のまちかわさき”、その中でも最も幸せな多摩区になっていけばと思う。
有北委員	チーム・たまについては、行政ではなく、多摩区の医師会がバックアップしているのか。
中村委員	行政の方にも協力してもらっている。全国でも在宅に関する取組をやっている団体はあるが、医師会が率先して行っている団体はほとんど無い。チーム・たまは多摩区医師会がバックアップしていくことで、もっと強くなっていると思っている。
有北委員	老々介護の家庭、認知症の方がいる家庭で、孤立した方がかなりいるので、是非一緒に何か協力していけたらと思う。 地域福祉ネットワークは、高齢者、介護ではなくて、もっと包括的なネットワークと理解して良いのか。
事務局	その通りである。以前のパートナーシップ連絡会は、内容が分り辛いため、福祉ネットワーク事業という名前に変えている。
青木委員	女性は色々活動している人が多いが、男性は仕事を退職した後に、何もしないで家に閉じこもっている人が多い。何か社会に出て活動できる事を考えてあげないと、すぐに介護が必要になる危険がある。男性が何もしないで閉じこもっているのが一番問題だと思う。
山口委員	地域福祉ネットワークや地域包括支援センターで何か出来ることを考えてほしい。男性に出てきてもらえるようにテーマを考えてほしい。

発言者	発言要旨
中村委員	介護保険を使わなくて良い元気なお年寄りを作ることだ。自治会・近所・家族が協力してなるべく外に連れ出す。まず家族が外出を誘うとか。一番身近な家族の係りが一番大事だ。
青木委員	都会の人間は隣の人が、どんな人かわからない。地域と結びつきが無い。仕事をしていた男性が退職した後に、どうやって地域と係っていくか。退職した男性は社会に出て行く自信が無い。それが一番危険だ。
柴原委員長	男性が地域に進出する方法を考えていかないといけない。テレビを見てみると老人会が訪問していたり、民生委員が活躍していたりという事があるが。
中村委員	最初はある程度近所と付き合わなくてもいい、まず趣味を見つけること。カメラを持って外へ出るとか。まず一人でもかまわないと思う。そこへ行ったら誰かがいて、同じ趣味の人と話したりできる。女性より男性の方がとっつきにくいけど、一杯飲みに行っていざ話すと気心が知れる。何か理由付けして外へ誘い出すことが大事だ。
青木委員	勤め人はそういった、地域の付き合いが無いので恥ずかしい。妻に勧められて料理教室へ行って良かった。行かなかったら認知症になっていたかもしれない。おしゃべりもできたし、体も動かしたし、頭も使えた。
有北委員	男性を外に誘い出す事は、市民館・まちづくり協議会とかでもさまざまな工夫をして、呼びかけをしている。この場だけでなく区役所の色々な部署が工夫しながら頑張っているところだ。そういう情報が共有できれば良いのでは。 資料10の26年度の取り組みで、真ん中の所で多摩区役所職員に対する市民協働研修の実施と書いてあるが、多摩区役所職員全体に対する研修なのか、一部分だけの研修なのか。 今、色々な部署が縦に横に斜めに連携してやっていかなければいけない時期に来ていると思うので、これに期待したい。縦割りで話が繋がらない事が多く、走り廻るが、壁が多いと普段感じている。この研修で区役所全体に研修を行っていただけたらと思って期待している。
事務局	区役所全体の事業として取り組み、福祉関係はもちろん、まちづくりや子育てなどの様々な分野で区役所内、多摩区の行政機関などの職員の方々が対象になっている。 行政の縦割りを超えて行けるような形で、市職員の意識の中で市民の方々と協働で進めて行けるような研修を進めて行きたい。
柴原委員長	その他について事務局のほうからご説明があります。
事務局	次の開催日程について 平成27年2月25日水曜日か3月4日水曜日の13:30～2時間程度を検討している。
日程調整	
事務局	今回は、3月4日13:30から開催とする。
柴原委員長	議題は以上となる。以上をもって議事終了とする。
田嶋副委員長	閉会の挨拶。
	閉会